

輪島市朝市通りの火災に関する意見

東京理科大学 小林恭一

津波警報発令下の浸水予想地域での消防活動には一定の指針が必要

- ・ 今回、大津波警報発令下で消火活動を行い、火災被害を半分以下に食い止めたことについては、国民として感謝しかない
- ・ だが、この時の消防活動は、津波によるリスクを伴う状況下で行われており、今後のあり方を考える上では、冷静な検証が必要
- ・ 現場の消防職団員は使命感が強いので、同様の状況に置かれれば、輪島消防と同じような活動をするのが普通で、それを止めることの方が難しいと思うが、現場の指揮者は苦悩の末の決断を強いられたはず
- ・ そのような苦渋の決断を強いることになったのは、このような事態にどう対処するか具体的に決めておかなかったためと反省し、国として改めて活動要領の見直しが必要

活動要領についての提案

- ・ 消防隊が危険な現場で活動するためには、最低限、災害に応じた①体力と装備、②知識、③以上を前提として作られた方法論、④それに基づく訓練が必要
- ・ NBCR 災害や土砂崩壊危険区域での活動については、この原則を満たすよう準備
- ・ 津波警報下での消防活動も、同じような原則に基づいて行われるべき
- ・ この原則を満たす場合に限り、津波警報下の浸水想定区域における消防活動が例外的に認められるという考え方にに基づき、国として基本的な活動要領を策定すべきではないか

ゾーニングの考え方はどうか

- ・ 津波浸水想定区域近辺では、即時避難に使える高所や中高層建築物の状況なども考慮して、NBCR 災害などに準じ、ホットゾーン、ウォームゾーン、コールドゾーンなどのゾーニングを予め決めておいたらどうか（警報レベルの変化に応じて変える必要）
- ・ 普通に消防活動が行えて、かつ、津波に流されても浮力がとれるような防火衣を着装
- ・ 津波専門家の意見を聞いて、各ゾーンでの活動方法、津波監視や警報伝達の仕組み、退避の仕方などの活動要領を作り、現地での訓練も行っておけば計画的な対応が可能

津波浸水想定区域の木造密集市街地は優先的に不燃化すべき

- ・ 津波浸水想定区域における消防活動には大きな制約があることを前提に、消防機関は津波浸水想定区域の不燃化の必要性を訴えるべき
- ・ 津波浸水想定区域にある木造密集市街地は防火又は準防火地域に指定したらどうか
- ・ 現在の準防火地域の基準は防火木造を許容しているが、木造モルタルは地震でモルタルが剥離して木ずりが剥き出しになるので、地震時の市街地火災対策として適当か、阪神淡路大震災の6つ、東日本大震災の2つの市街地大火を再検証する必要がある
- ・ 国交省の「地震時等に著しく危険な密集市街地解消事業」では、「不燃領域率」の算定に防火木造を入れていないが、準防火地域もこれと同様にすべきではないか